

(様式第 10)

梨大医医事発第 2 号
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣 殿

山梨大学医学部附属病院
開設者名 前田 秀一

山梨大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和 23 年法律第 205 号)第 12 条の 3 第 1 項の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒409-3898 山梨県中央市下河東1,110番地
氏 名	国立大学法人山梨大学 学長 前田 秀一郎

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

山梨大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒409-3898 山梨県中央市下河東1,110番地 電話(055) 273- 1111
--

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有	・	<input type="radio"/> 無
内科と組み合わせた診療科名等			
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 腎臓内科 5 神経内科 6 糖尿病・内分泌内科 7 血液・腫瘍内科 8 9 10 11 12 13 14			
診療実績			

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	有	無
外科と組み合わせた診療科名		
1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 心臓血管外科 4 小児外科 5 乳腺・内分泌外科 6 形成外科 7		
8 9 10 11 12 13 14		
診療実績		

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科 2小児科 3整形外科 4脳神経外科 5皮膚科 6泌尿器科 7産婦人科
8産科 9婦人科 10眼科 11耳鼻咽喉科 12放射線科 13放射線診断科
14放射線治療科 15麻酔科 16救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有	無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 歯科口腔外科 2 3 4 5 6 7		
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 病理診断科 2 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
40床	床	床	床	566床	606床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	251人	65.8人	316.8人	看護補助者	62人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	4人	8人	理学療法士	6人	臨床検査技師	37人
薬 剤 師	36人	0人	36人	作業療法士	3人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視能訓練士	3人	その他	0人
助産師	27人	1.1人	28.1人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	476人	23.2人	499.2人	臨床工学技士	9人	医療社会事業従事者	4人
准看護師	0人	0人	0人	栄 養 士	4人	その他の技術員	10人
歯科衛生士	1人	0人	1人	歯科技工士	1人	事務職員	118人
管理栄養士	5人	0人	5人	診療放射線技師	29人	その他の職員	51人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 26 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	9人	眼科専門医	10人
外科専門医	32人	耳鼻咽喉科専門医	9人
精神科専門医	10人	放射線科専門医	15人
小児科専門医	16人	脳神経外科専門医	13人
皮膚科専門医	8人	整形外科専門医	10人
泌尿器科専門医	12人	麻酔科専門医	13人
産婦人科専門医	13人	救急科専門医	2人
		合 計	172人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合 計
1日当たり平均入院患者数	452.8人	3.9人	456.7人
1日当たり平均外来患者数	1,230.0人	55.7人	1,285.7人
1日当たり平均調剤数			715剤
必要医師数			119人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			16人
必要(准)看護師数			274人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	123.6m ²	鉄筋コンクリート	病床数	6床	心電計	有・無
			人工呼吸装置	有・無	心細動除去装置	有・無
			その他の救急蘇生装置	有・無	ペースメーカー	有・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 100.5 m ² [移動式の場合] 台数 台		病床数	6床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 27 m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	338m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) US-3100R plus, U-SCANNERII, エプライザ-2, OC-SENSORIO, BM6010			
細菌検査室	110m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) マイクロスキャン, パクテアラート3D, 安全キャビネット, インキュベーター, オートクレーブ			
病理検査室	205m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動固定包埋装置, パラフィン包埋装置, 自動染色装置, 自動免疫染色装置, クリオスタット, マクロ及びマイクロ写真撮影装置, ディープフィールド・ディフュージョン顕微鏡			
病理解剖室	90m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 自動固定包埋装置, パラフィン包埋装置, 自動染色装置, 自動免疫染色装置, クリオスタット, マクロ及びマイクロ写真撮影装置, ディープフィールド・ディフュージョン顕微鏡			
研究室	12,034m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 各種実験装置、解析装置			
講義室	4,788m ²	鉄筋コンクリート	室数	5室	収容定員	943人
図書室	1,663m ²	鉄筋コンクリート	室数	閲覧室3室, 学習室4室, 視聴覚室1室, 閉架書庫1室	蔵書数	95,600冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年7月1日～平成26年7月31日		
紹介率		97.7%	逆紹介率	40.6%
算出根拠	A: 紹介患者の数	1,266人		
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	554人		
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	67人		
	D: 初診の患者の数	1,363人		

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	アバスチン硝子体注射療法	取扱患者数	54人
当該医療技術の概要 「増殖性糖尿病性網膜症」及び「血管新生緑内障」患者に対し、アバスチン注を計3回程度硝子体注射を行い、血管内皮増殖因子阻害効果に有用性がある。			
医療技術名	造影EUS定量解析による膵腫瘍診断	取扱患者数	105人
当該医療技術の概要 膵胆道疾患に対して、超音波検査時にソナゾイド注を使用することにより、膵胆悪性腫瘍の鑑別診断に有用性がある。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	21人	・膿疱性乾癬	2人
・多発性硬化症	65人	・広範脊柱管狭窄症	8人
・重症筋無力症	63人	・原発性胆汁性肝硬変	30人
・全身性エリテマトーデス	94人	・重症急性膵炎	14人
・スモン	5人	・特発性大腿骨頭壊死症	8人
・再生不良性貧血	25人	・混合性結合組織病	7人
・サルコイドーシス	17人	・原発性免疫不全症候群	2人
・筋萎縮性側索硬化症	35人	・特発性間質性肺炎	5人
・強皮症, 皮膚筋炎及び多発性筋炎	73人	・網膜色素変性症	32人
・特発性血小板減少性紫斑病	45人	・プリオン病	0人
・結節性動脈周囲炎	26人	・肺動脈性肺高血圧症	1人
・潰瘍性大腸炎	65人	・神経線維腫症	5人
・大動脈炎症候群	5人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	14人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0人
・天疱瘡	13人	・慢性血栓性肺高血圧症	0人
・脊髄小脳変性症	70人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	34人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	1人	・脊髄性筋萎縮症	1人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	130人	・球脊髄性筋萎縮症	7人
・アミロイドーシス	2人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	15人
・後縦靭帯骨化症	29人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	0人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	28人	・ミトコンドリア病	1人
・ウェゲナー肉芽腫症	4人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うつ血型)心筋症	46人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	25人	・黄色靭帯骨化症	9人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	0人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	33人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院入院基本料1 一般病棟 イ 7対1入院基本料	・ハイリスク分娩管理加算
・急性期看護補助体制加算50対1	・退院調整加算
・特定機能病院入院基本料3 精神病棟 ハ 13対1入院基本料	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・看護補助加算50対1	・データ提出加算
・特定集中治療室管理料3	・
・新生児特定集中治療室管理料1	・
・新生児治療回復室入院医療管理料	・
・小児入院医療管理料2	・
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・
・歯科外来診療環境体制加算	・
・臨床研修病院入院診療加算(医科)	・
・臨床研修病院入院診療加算(歯科)	・
・救急医療管理加算	・
・超急性期脳卒中加算	・
・妊産婦緊急搬送入院加算	・
・診療録管理体制加算2	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算	・
・感染防止対策加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・ヘッドアップティルト試験
・がん性疼痛緩和指導管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん患者指導管理料1	・長期継続頭蓋内脳波検査
・外来緩和ケア管理料	・光トポグラフィー
・移植後患者指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・補聴器適合検査
・夜間休日救急搬送医学管理料	・小児食物アレルギー
・外来リハビリテーション診療料	・内服・点滴誘発試験
・外来放射線照射診療料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る)
・地域連携診療計画管理料(脳卒中)	・CT透視下気管支鏡検査加算
・がん治療連携計画策定料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・大腸CT撮影加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・外来化学療法加算2
・医療機器安全管理料(歯科)	・無菌製剤処理料
・在宅血液透析指導管理料	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・がん患者リハビリテーション料
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・歯科口腔リハビリテーション料2
・遺伝カウンセリング加算	・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・医療保護入院等診療料
・植込型心電図検査	・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)
・時間内歩行試験	・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・透析液水質確保加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・一酸化窒素吸入療法	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・CAD/CAM冠	・腹腔鏡下小切開副腎摘出術
・歯科技工加算	・腹腔鏡下小切開腎部分切除術、腹腔鏡下小切開腎摘出術、腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・同種死体腎移植術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・生体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・膀胱水圧拡張術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・人工内耳埋込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下小切開膀胱悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・人工尿道括約筋植込・置換術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・乳ガンセンチネルリンパ節加算1	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む。)に掲げる手術
・経皮的冠動脈形成術	・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・自己生体組織接着剤作成術
・経皮的冠動脈ステント留置術	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・ペースメーカー移植術・ペースメーカー交換術	・内視鏡手術用支援機器加算
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)	・麻酔管理料(Ⅰ)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・麻酔管理料(Ⅱ)
・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)	・放射線治療専任加算
・経皮的動脈遮断術	・外来放射線治療加算
・ダメージコントロール手術	・高エネルギー放射線治療
・腹腔鏡下肝切除術	・1回線量増加加算

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1	次世代シーケンサーを用いた統合的遺伝子解析による慢性C型肝炎の病態解明	榎本 信幸	第1内科	6,110,000	補委 日本学術振興会
2	次世代シーケンサーによるHCVゲノム解析と薬剤耐性機構の解明	坂本 穰	肝疾患センター	1,820,000	補委 日本学術振興会
3	Ultra-deep sequencingを用いたHCV治療戦略の構築	前川 伸哉	第1内科	1,820,000	補委 日本学術振興会
4	次世代シーケンサーを用いた膝疾患診断および治療効果予測の検討	高野 伸一	第1内科	2,080,000	補委 日本学術振興会
5	薬剤溶出性ステント留置後の冠動脈内皮障害へのリモートコンディショニング効果の検討	中村 貴光	第2内科	520,000	補委 日本学術振興会
6	ホスホリパーゼA2を介するマクロファージの変性LDL取込みにおける新たな機序解明	藤岡 大佑	地域医療連携支援学	1,170,000	補委 日本学術振興会
7	分泌型ホスホリパーゼA2とその受容体を基盤とする心血管再生の機序解明と治療薬開発	渡辺 一広	第2内科	2,470,000	補委 日本学術振興会
8	CD28ノックアウトNODマウスを用いた緩徐進行1型糖尿病のモデル動物の開発	小林 哲郎	第3内科	1,690,000	補委 日本学術振興会
9	劇症1型糖尿病の病因・病態の解明及び新たな治療法の開発	遠藤 登代志	第3内科	1,170,000	補委 日本学術振興会
10	劇症1型糖尿病発症における自然免疫の役割と発症予防に関する研究	會田 薫	第3内科	1,950,000	補委 日本学術振興会
11	小胞体ストレス応答における甲状腺ホルモン受容体の作用の解明	古屋 文彦	第3内科	2,080,000	補委 日本学術振興会
12	骨髄増殖性腫瘍における低酸素エピゲノム応答機序とその破綻の解明	桐戸 敬太	血液・腫瘍内科	1,170,000	補委 日本学術振興会
13	小児難治性固形腫瘍に対する同種ナチュラルキラー細胞による抗腫瘍効果	合井 久美子	小児科	1,690,000	補委 日本学術振興会
14	小児白血病に対する移植片対白血病効果における細胞傷害因子の臨床応用に向けた研究	犬飼 岳史	小児科	1,950,000	補委 日本学術振興会
15	超低分子量ヒアルロン酸を用いたCD44高発現腫瘍に対する分子標的療法の開発	杉田 完爾	小児科	1,950,000	補委 日本学術振興会
16	年少児の睡眠時無呼吸症候群患者が痩せ体型となるメカニズムの解明	杉山 剛	小児科	1,950,000	補委 日本学術振興会
17	抗ミューラー管ホルモンは前思春期の精子形成を抑制する	大山 建司	小児科	1,690,000	補委 日本学術振興会
18	神経接着因子関連の脳神経ネットワークから依存を解明する	石黒 浩毅	精神科	1,300,000	補委 日本学術振興会
19	アルツハイマー病脳におけるマイクロRNA発現の異常と酸化ストレスの関連性	布村 明彦	精神科	1,430,000	補委 日本学術振興会
20	経頭蓋直流刺激の臨床応用についての研究	本橋 伸高	精神科	1,170,000	補委 日本学術振興会
21	電気けいれん療法における発作後せん妄状態の脳波・局所脳血流解析	安田 和幸	精神科	1,040,000	補委 日本学術振興会
22	双極性障害におけるTRPM2/GSK3βを介した細胞内カルシウム制御障害の解明	上村 拓治	精神科	1,430,000	補委 日本学術振興会
23	HSV/HIV 経皮感染初期の免疫機構の解明と侵入阻害法の開発	島田 眞路	皮膚科	4,550,000	補委 日本学術振興会
24	メラノーマ担癌宿主に対する有効な免疫治療法を確立するための基礎研究	柴垣 直孝	皮膚科	1,040,000	補委 日本学術振興会
25	キナーゼ阻害薬の悪性黒色腫増殖抑制に対するメカニズムの解明	原田 和俊	皮膚科	1,300,000	補委 日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
26	蛍光HIVの表皮侵入機構の可視化と新規HIV侵入阻害薬の開発	川村 龍吉	皮膚科	520,000	⑤補委 日本学術振興会
27	T cell抑制因子を阻害する新しいメラノーマ治療法の開発	猪爪 隆史	皮膚科	2,470,000	⑤補委 日本学術振興会
28	マラビロク内服後の精液暴露による経皮的ヒト免疫不全ウイルス感染阻害効果	松澤 高光	皮膚科	1,430,000	⑤補委 日本学術振興会
29	単純ヘルペスウイルス感染防御におけるマスト細胞の役割の解明	青木 類	皮膚科	1,040,000	⑤補委 日本学術振興会
30	担癌宿主におけるSTAT3阻害剤(GRIM-19)を用いた抗腫瘍効果の研究	花輪 書絵	皮膚科	1,040,000	⑤補委 日本学術振興会
31	STAT3阻害剤(ヒト型rR9-GRIM19タンパク)を用いた抗腫瘍効果の検討	岡本 崇	皮膚科	2,860,000	⑤補委 日本学術振興会
32	慢性日本住血吸虫症の肝細胞癌切除後の再発・予後に与える影響とそのメカニズムの解明	松田 政徳	第1外科	910,000	⑤補委 日本学術振興会
33	肝臓機能重視した新しい視点に基づく人工肝臓補助システムの開発	藤井 秀樹	第1外科	910,000	⑤補委 日本学術振興会
34	食道扁平上皮癌に対する抗HER3抗体療法の開発	河口 賀彦	第1外科	2,080,000	⑤補委 日本学術振興会
35	ヒト食道癌におけるT-reg, Th17細胞の遊走・分化と病態進行の検討	丸山 孝教	第1外科	1,560,000	⑤補委 日本学術振興会
36	Triple negative乳癌のサブ分類と上皮間質転換、癌幹細胞に関する研究	井上 重矢子	第1外科	2,210,000	⑤補委 日本学術振興会
37	本邦における小児褥瘡の発症現況と病態の解明、および褥瘡予防器具の開発	高野 邦夫	第2外科	260,000	⑤補委 日本学術振興会
38	CREBを分子標的とした大動脈瘤に対する遺伝子治療の開発	松本 雅彦	第2外科	1,170,000	⑤補委 日本学術振興会
39	小児人工心肺の安全性向上のための膜型人工肺における灌流障害に関する研究	鈴木 章司	第2外科	1,040,000	⑤補委 日本学術振興会
40	変形性脊椎症の原因解明と低侵襲治療の開発	波呂 浩孝	整形外科	1,950,000	⑤補委 日本学術振興会
41	骨肉腫におけるmTORの役割の解明	安藤 隆	整形外科	2,080,000	⑤補委 日本学術振興会
42	椎間板変性におけるmTORの役割の解明	若生 政憲	整形外科	2,080,000	⑤補委 日本学術振興会
43	脳虚血耐性現象におけるエピジェネティクスを介した神経保護機序の解明	吉岡 秀幸	脳神経外科	1,300,000	⑤補委 日本学術振興会
44	脳虚血においてGLP-1がアポトーシスを抑制し神経再生を促進する分子機構の解明	金丸 和也	脳神経外科	1,820,000	⑤補委 日本学術振興会
45	脳虚血および虚血耐性現象におけるミトコンドリアバイオジェネシスの意義の解明	木内 博之	脳神経外科	1,950,000	⑤補委 日本学術振興会
46	新規血小板活性化受容体CLEC-2の悪性グリアの増殖能及び浸潤能への関与	佐藤 浩企	脳神経外科	1,430,000	⑤補委 日本学術振興会
47	頸動脈プラークにおける新規血小板活性化受容体CLEC-2の役割	橋本 幸治	脳神経外科	1,690,000	⑤補委 日本学術振興会
48	前投薬、加齢が麻酔前加温と術中体温(中枢温、末梢温)に及ぼす影響に関する研究	松川 隆	麻酔科	1,950,000	⑤補委 日本学術振興会
49	心筋虚血再灌流障害に対して高用量インスリン投与は有効か	佐藤 宏明	麻酔科	1,300,000	⑤補委 日本学術振興会
50	脳虚血・還流後のアドレナリン、バソプレッシンの脳保護効果	浅野 伸将	麻酔科	3,770,000	⑤補委 日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
51	PI3K/Akt経路からみた高用量インスリンの心筋プレコンディショニング効果	小口 健史	麻酔科	2,990,000	補委 日本学術振興会
52	体細胞核移植技術の臨床応用の実現へ向けた系統的・基礎的研究	平田 修司	産婦人科	1,560,000	補委 日本学術振興会
53	子宮頸部胃型腺系病変の生物学的解析	端 晶彦	医療福祉支援センター	780,000	補委 日本学術振興会
54	雄性生殖細胞への遺伝子導入による遺伝子疾患治療の試み	正田 朋子	産婦人科	1,820,000	補委 日本学術振興会
55	凍結保存した除核IVM卵を用いた体細胞核移植胚由来ES細胞の作出	深澤 宏子	産婦人科	1,820,000	補委 日本学術振興会
56	体細胞核移植技術を用いた癌幹細胞モデルの作成と新しい分化誘導療法の検討	多賀谷 光	産婦人科	1,300,000	補委 日本学術振興会
57	下部尿路機能障害における求心性伝達機構と新たな治療法の開発に関する研究	武田 正之	泌尿器科	3,250,000	補委 日本学術振興会
58	下部尿路におけるTRPV4を介した伸展刺激による尿意のメカニズムの解明	望月 勉	泌尿器科	1,560,000	補委 日本学術振興会
59	間質性膀胱炎の疼痛に対するボツリヌス毒素、トリカブト毒の作用機序	土田 孝之	泌尿器科	1,040,000	補委 日本学術振興会
60	A型ボツリヌス毒素は、尿路のTRPイオンチャネルを制御するか？	工藤 祥司	泌尿器科	1,170,000	補委 日本学術振興会
61	慢性腎臓後排尿障害に関連する神経ペプチドと代謝型グルタミン酸信号伝達の可塑性変化	芳山 充晴	泌尿器科	2,600,000	補委 日本学術振興会
62	膀胱上皮における新規メカノセンサーPiezoの発現と機能の解明	宮本 達也	泌尿器科	1,300,000	補委 日本学術振興会
63	病態モデル膀胱上皮細胞の伸展刺激に対するATP放出のメカニズム	吉良 聡	泌尿器科	2,080,000	補委 日本学術振興会
64	間質性膀胱炎のメカニズムの解明と新規治療薬候補GsMTx4の可能性	大竹 裕子	泌尿器科	1,950,000	補委 日本学術振興会
65	Estrogen一受容体による眼圧制御、眼圧上昇メカニズムの解明	間瀬 文彦	眼科	1,560,000	補委 日本学術振興会
66	網膜静脈閉塞症眼における虚血定量評価システムの確立	飯島 裕幸	眼科	1,430,000	補委 日本学術振興会
67	眼グリア細胞の緑内障性網膜神経節障害への関与機序解明と治療法の探索	古屋 敏江	眼科	2,080,000	補委 日本学術振興会
68	低容量抗癌剤と樹状細胞局所投与による新規免疫化学療法の開発	増山 敬祐	頭頸部・耳鼻咽喉科	1,820,000	補委 日本学術振興会
69	非小細胞肺癌に対する定位放射線治療後の放射線肺臓炎発症に関与する遺伝子多型の研究	大西 洋	放射線科	1,300,000	補委 日本学術振興会
70	顎変形症手術における顎関節応力解析に関する研究	上木 耕一郎	歯科口腔外科	910,000	補委 日本学術振興会
71	磁場を利用した成長因子・細胞局所注入法と超音波照射を応用した骨膜伸展骨形成法開発	樋口 雅俊	歯科口腔外科	2,210,000	補委 日本学術振興会
72	骨膜伸展による骨形成の検討	外堀 恵	歯科口腔外科	2,600,000	補委 日本学術振興会
73	顎変形症術後の力学刺激による治療促進効果の検討	丸川 浩平	歯科口腔外科	1,950,000	補委 日本学術振興会
74	肺胞上皮細胞の発生、分化における血小板受容体CLEC-2の役割の解明	井上 修	臨床検査医学	780,000	補委 日本学術振興会
75	ピロリ菌惹起ITPにおける外毒素VacAと血小板マールチリンの役割	尾崎 由基男	臨床検査医学	1,170,000	補委 日本学術振興会

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
76	抗血小板薬シロスタゾールの薬効モニタリング法の開発ならびに有用性の検討	佐藤 金夫	臨床検査医学	1,300,000	⑤補委 日本学術振興会
77	血中sCLEC-2測定法の臨床応用と実用化に向けた検討	長田 誠	検査部	2,470,000	⑤補委 日本学術振興会
78	尿路上皮癌の新しい検出法-FGFR3の発現およびHPV・DNAの検出part2-	中澤 久美子	病理部	600,000	⑤補委 日本学術振興会
79	セボフルラン、プロポフォール麻酔時のエストロゲン、プロゲステロンの脳保護効果	石山 忠彦	手術部	1,040,000	⑤補委 日本学術振興会
80	各種制吐薬が体温調節性シバリングに与える影響についての研究	正宗 大士	手術部	2,080,000	⑤補委 日本学術振興会
81	mTORを分子標的としたバイパス開存率向上の研究	榊原 賢士	救急部	910,000	⑤補委 日本学術振興会
82	肝再生・肝線維化における新規血小板活性化受容体CLEC-2の役割に関する検討	雨宮 秀武	集中治療部	1,950,000	⑤補委 日本学術振興会
83	敗血症ラット持続的血液濾過透析モデルにおける膜素材の検討とバイオマーカーの探索	針井 則一	地域医療学	1,430,000	⑤補委 日本学術振興会
84	「どこでもMY病院」構想実現に向けての薬剤情報共有推進に関する研究	小口 敏夫	薬剤部	3,120,000	⑤補委 日本学術振興会
85	抗がん剤投与による末梢神経障害の緩和を目的とした皮膚貼付型ハイドロゲルの開発	飯島 哲也	麻酔科	26,000	⑤補委 日本学術振興会
86	頭頸部癌アウトカム・リサーチに関する基礎的研究	森山 元大	頭頸部・耳鼻咽喉科	195,000	⑤補委 日本学術振興会
87	足浴は高齢者における夜間多尿と睡眠の質を改善する	武田 正之	泌尿器科	65,000	⑤補委 日本学術振興会
88	足浴は高齢者における夜間多尿と睡眠の質を改善する	芳山 充晴	泌尿器科	65,000	⑤補委 日本学術振興会
89	遺伝子産性対麻痺の新規原因遺伝子同定とその機能解析	瀧山 嘉久	神経内科	65,000	⑤補委 日本学術振興会
90	微細緑藻類による放射性物質除染法開発とその発癌抑制効果	古屋 文彦	第3内科	130,000	⑤補委 日本学術振興会
91	微細緑藻類による放射性物質除染法開発とその発癌抑制効果	一條 昌志	第3内科	130,000	⑤補委 日本学術振興会
92	小型遠心ポンプを用いた可搬型徐水システムの開発	松田 兼一	救急部	130,000	⑤補委 日本学術振興会
93	新規血小板上受容体CLEC-2を標的とした抗血小板薬、抗転移・腫瘍薬、検査の開発	井上 克枝	臨床検査医学	34,944,000	⑤補委 日本学術振興会
94	次世代シーケンズ技術を駆使したウイルスゲノム解析によるC型肝炎の病態解明と臨床応用	榎本 信幸	第1内科	32,410,000	⑤補委 厚生労働省
95	B型肝炎ウイルスの感染複製機構の解明に関する研究	榎本 信幸	第1内科	9,000,000	⑤補委 厚生労働省
96	アレルギー疾患におけるダニ抗原標準化の研究	増山 敬祐	頭頸部・耳鼻咽喉科	1,000,000	⑤補委 厚生労働省
97	創薬と新規治療法開発に資するヒト肝細胞キメラマウスを用いた肝炎ウイルス制御に関する研究	前川 伸哉	第1内科	2,500,000	⑤補委 厚生労働省
98	B型肝炎ウイルス感染症に対する新規の治療薬の研究・開発	榎本 信幸	第1内科	6,800,000	⑤補委 厚生労働省
99	科学的根拠に基づくウイルス性肝炎診療ガイドラインの構築に関する研究	坂本 穰	肝疾患センター	2,000,000	⑤補委 厚生労働省
100	安全かつ効果的な抗HIV療法開発のための研究	川村 龍吉	皮膚科	3,000,000	⑤補委 厚生労働省

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

番号	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
101	がんの診療科データベースとJapanese National Cancer Database(JNCDB)の構築と運用	大西 洋	放射線科	100,000	⑤補委 厚生労働省
102	次世代シーケンシング・ゲノムワイド関連解析を用いたC型肝炎治療に伴う肝病態進展軽快、肝発病に関わる宿主因子の解析	前川 伸哉	第1内科	1,000,000	⑤補委 厚生労働省
103	慢性ウイルス性肝疾患患者の情報収集の在り方等に関する研究	坂本 穰	肝疾患センター	1,500,000	⑤補委 厚生労働省
104	新規動物試験代替法の開発、国際標準化および普及促進に関する研究	川村 龍吉	皮膚科	1,500,000	⑤補委 厚生労働省
105	運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究	瀧山 嘉久	神経内科	1,500,000	⑤補委 厚生労働省
106	スモンに関する調査研究(山梨県におけるスモン患者の病態)	瀧山 嘉久	神経内科	700,000	⑤補委 厚生労働省
107	200ml献血由来の赤血球濃厚液の安全性と有効性の評価及び初回献血を含む学校献血の推進等に関する研究	岩尾 憲明	血液細胞治療部	350,000	⑤補委 厚生労働省
108	高精度放射線治療システムの実態調査と臨床評価に関する研究	大西 洋	放射線科	100,000	⑤補委 厚生労働省
109	脳動脈瘤塞栓術におけるHydrogel coilの塞栓効果に関する他施設共同無作為化比較支援(HYBRID study)	木内 博之	脳神経外科	13,650	⑤補委 公益財団法人先端医療振興財団
110	「ハイリスク消化管間質腫瘍(GIST)に対する完全切除後の治療に関する研究」(研究略称:STAR ReGISTry)	河口 賀彦	第1外科	42,000	⑤補委 公益財団法人先端医療振興財団
111	「戦略的創造研究推進事業(チーム型研究(CREST))」PLA2メタボロームによる疾患脂質代謝マップの創成とその医療展開に向けての基盤構築	久木山 清貴	第2内科	3,900,000	⑤補委 独立行政法人科学技術振興機構
					計 111 件

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Miura M, Maekawa S, Sato M, Komatsu N, Tatsumi A, Takano S, Amemiya F, Nakayama Y, Inoue T, Sakamoto M, Enomoto N.	University of Yamanashi	Deep sequencing analysis of variants resistant to the non-structural 5A inhibitor daclatasvir in patients with genotype 1b hepatitis C virus infection.	Hepatology Res. 2014 Feb 25. doi: 10.1111/hepr.12316. [Epub ahead of print]
2	Komatsu N, Motosugi U, Maekawa S, Shindo K, Sakamoto M, Sato M, Tatsumi A, Miura M, Amemiya F, Nakayama Y, Inoue T, Fukasawa M, Uetake T, Ohtaka M, Sato T, Asahina Y, Kurosaki M, Izumi N, Ichikawa T, Araki T, Enomoto N.	University of Yamanashi	Hepatocellular carcinoma risk assessment using gadoxetic acid-enhanced hepatocyte phase magnetic resonance imaging.	Hepatology Res. 2014 Feb 14. doi: 10.1111/hepr.12309. [Epub ahead of print]
3	Miura M, Maekawa S, Takano S, Komatsu N, Tatsumi A, Asakawa Y, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Inoue T, Sakamoto M, Yamashita A, Moriishi K.	University of Yamanashi	Deep-sequencing analysis of the association between the quasispecies nature of the hepatitis C virus core region and disease progression.	J Virol. 2013 Dec;87(23):12541-51.
4	Shindo H, Maekawa S, Komase K, Miura M, Kadokura M, Sueki R, Komatsu N, Shindo K, Amemiya F, Nakayama Y, Inoue T, Sakamoto M.	University of Yamanashi	IL-28B (IFN- λ 3) and IFN- α synergistically inhibit HCV replication.	J Viral Hepat. 2013 Apr;20(4):281-9.
5	Kadokura M, Iwasa S, Honma Y, Kato K, Hamaguchi T, Yamada Y, Enomoto N, Shimada Y.	University of Yamanashi	Weekly paclitaxel as second-line chemotherapy in Japanese patients with advanced gastric cancer.	Anticancer Res. 2013 Oct;33(10):4547-52.
6	Takamitsu NAKAMURA, Yoshinobu KITTA, Manabu UEMATSU, Wataru SUGAMATA, Mitsumasa HIRANO, Daisuke FUJIOKA, Keita SANO, Yukio SAITO, Ken-ichi KAWABATA, Jun-ei OBATA, Kiyotaka	University of Yamanashi	Ultrasound assessment of brachial endothelial vasomotor function in addition to carotid plaque echolucency for predicting cardiovascular events in patients with coronary artery disease.	International journal of cardiology 167(2):555-560.2013.7
7	Shun TAMARU, Hideto MISHINA, Yousuke WATANABE, Kazuhiro WATANABE, Daisuke FUJIOKA, Souichirou TAKAHASHI, Kouji SUZUKI, Takamitsu NAKAMURA, Jun-ei OBATA, Kenichi KAWABATA, Yasunori YOKOTA, Makoto MURAKAMI, Kouji HANASAKI, Kiyotaka	University of Yamanashi	Deficiency of phospholipase A2 receptor exacerbates ovalbumin-induced lung inflammation.	Journal of immunology 191(3):1021-1028.2013.8
8	Souichirou TAKAHASHI, Kouji SUZUKI, Yousuke WATANABE, Kazuhiro WATANABE, Daisuke FUJIOKA, Takamitsu NAKAMURA, Jun-ei OBATA, Kenichi KAWABATA, Hideto MISHINA, Kiyotaka	University of Yamanashi	Phospholipase A2 expression in coronary thrombus is increased in patients with recurrent cardiac events after acute myocardial infarction.	International journal of cardiology 168(4):4214-4221.2013.10
9	Jun-ei OBATA, Takamitsu NAKAMURA, Yoshinobu KITTA, Yukio SAITO, Keita SANO, Daisuke FUJIOKA, Kenichi KAWABATA, Kiyotaka KUGIYAMA	University of Yamanashi	In-stent restenosis is inhibited in a bare metal stent implanted distal to a sirolimus-eluting stent to treat a long de novo coronary lesion with small distal vessel diameter.	Catheterization and Cardiovascular Interventions 82(6):E777-787.2013.11
10	Yoshinobu KITTA, Takamitsu NAKAMURA, Manabu UEMATSU, I Wataru SUGAMATA, Juntaro DEYAMA, Daisuke FUJIOKA, Yukio SAITO, Kenichi KAWABATA, Jun-ei OBATA, Kiyotaka KUGIYAMA	University of Yamanashi	Insulin resistance negatively affects long-term outcome in non-diabetic patients with coronary artery disease after therapies to reduce atherosclerotic risk factors.	Journal of Cardiology 62(6):348-353.2013.12
11	Manabu UEMATSU, Takamitsu NAKAMURA, Wataru SUGAMATA, Yoshinobu KITTA, Daisuke FUJIOKA, Yukio SAITO, Kenichi KAWABATA, Jun-ei OBATA, Yousuke WATANABE, Kazuhiro WATANABE, Kiyotaka	University of Yamanashi	Echolucency of Carotid Plaque Is Useful for Assessment of Residual	Circulation journal 78(1):151-158.2014.1

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
12	Hideto MISHINA, Kazuhiro WATANABE, Shun TAMARU, Yosuke WATANABE, Daisuke FUJIOKA, Souichirou TAKAHASHI, Kouji SUZUKI, Takamitsu NAKAMURA, Jun- ei OBATA, Kenichi KAWABATA, Yasunori YOKOTA, Osamu INOUE, Makoto MURAKAMI, Kouji	University of Yamanashi, Shionogi Research Laboratories, Shionogi & Co Ltd, the Tokyo Metropolitan Institute of Medical Science	Lack of phospholipase A2 receptor increases susceptibility to cardiac rupture after myocardial infarction.	Circulation Research 114(3):493-504, 2014.1
13	Toyoshi ENDO, Tetsuro KOBAYASHI	University of Yamanashi	Concurrent overexpression of RET/PTC-1 and TTF-1 confers tumorigenicity to thyrocytes.	Endocrine Related Cancer 20(6):767-776, 2013.09
14	Toyoshi ENDO, Tetsuro KOBAYASHI	University of Yamanashi	Excess TSH causes abnormal skeletal development in young mice w	Am J Physiol Endocrinol Metab. 305:E660-E666, 2013.07
15	Shoichiro TANAKA, Kaoru AIDA, Yoriko Nishida, Tetsuro KOBAYASHI	University of Yamanashi	Pathophysiological mechanisms involving aggressive islet cell destruction in fulminant type 1 diabetes	Endocrine Journal 60(7):837-845, 2013.07
16	Toyoshi ENDO, Tetsuro KOBAYASHI	University of Yamanashi	Immunization of mice with a newly identified thyroid-stimulating hormone receptor splice variant induces Graves'-like disease.	Journal of Autoimmunity 43:18-25, 2013.05
17	Fumihiko FURUYA, Hiroki SHIMURA, Keiichi ASAMI, Sayaka Ichizyo, Kazuya TAKAHASHI, Masahiro KANESHIGE, Y OIKAWA, Kaoru AIDA, Toyoshi ENDO.	University of Yamanashi, Saiseikai Central Hospital	Ligand-Bound Thyroid Hormone Receptor Contributes to Reprogramming of Pancreatic Acinar Cells Into Insulin-Producing Cells.	J Biol Chem 288(22):16155-16166, 2013.04
18	Shindo K, Kobayashi F, Miwa M, Nagasaka T, Takiyama Y, Shiozawa Z	University of Yamanashi	Temporal prolongation of decreased skin blood flow causes cold limbs in Parkinson's disease.	J Neural Transm. 120(3):445-451, 2013
19	Fukumoto M, Yamashiro N, Kobayashi F, Nagasaka T, Takiyama Y	University of Yamanashi	A case of hypokalemic myopathy induced by excessive drinking of a beverage containing green tea extract.	Rinsho Shinkeigaku, 53(3):239-242, 2013
20	Koh K, Nagasaka T, Kobayashi F, Yamashiro N, Shindo K, Takiyama Y	University of Yamanashi	Cheyne-Stokes respiration appeared in an early stage of the disease in a patient with Creutzfeldt-Jakob disease.	Rinsho Shinkeigaku 53(8):642-645, 2013
21	Shindo K, Kobayashi F, Miwa M, Nagasaka T, Takiyama Y, Shiozawa Z	University of Yamanashi, Atami Hospital, International University of Health and Welfare	Active vasodilation by sympathetic outflow to limb skin in a patient with progressive aphasia.	Neuroreport 25(5):303-306, 2014
22	Sueki Y, Nozaki Y, Kawashima I, Yamamoto T, Nakajima K, Mitunori T, Kirito K.	University of Yamanashi	Anaplastic large cell lymphoma with paraneoplastic neutrophilia: an association between IL-17 elevation and aggressive disease progression.	International Journal of Hematology. 2014;99(6):773-776.
23	Nozaki Y, Mitunori T, Yamamoto T, Kawashima I, Shobu Y, Hamanaka S, Nakajima K, Komatsu N, Kirito K.	University of Yamanashi, Juntendo University School of Medicine	Rituximab activates Syk and AKT in CD20-positive B cell lymphoma cells dependent on cell membrane cholesterol levels.	Experimental Hematology 2013;41(8):687-696.
24	Takeshi Sugiyama, Masanori Kitamura, Kanji Sugita, Tohru Okuda, Masashi Hisamoto, Atsuhito Nakao	University of Yamanashi, Juntendo University School of Medicine	Grape Seed Extract from Koshu Cultivar Antagonizes Dioxin-Induced Aryl Hydrocarbon Receptor Activation	Am. J. Enol. Vitic. 64(1) 146-151
25	Yagasaki H, Nakane T, Saito T, Koizumi K, Kobayashi K, Ogata T.	University of Yamanashi	Disorder of sex development in an infant with molecularly confirmed 46,XY, +der(10)t(10;21)(q21.1;q21.3), -21.	Am J Med Genet 2014; 164:841-3.
26	Nakane T, Nakamura K, Hata S, Kamiya Y, Sato H, Kubota K, Sugita K.	University of Yamanashi	6p subtelomere deletion with congenital glaucoma, severe mental retardation and growth impairment	Pediatr Int 55:376-81, 2013.
27	Kanemura H, Aihara M	University of Yamanashi	Epilepsy in children - Brain growth and behavior	Journal of Neurology and Neurophysiology 2013; 52: 006
28	Kanemura H, Sano F, Tando T, Sugita K, Aihara M	University of Yamanashi	Can EEG characteristics predict development of epilepsy in autistic children?	European Journal of Paediatric Neurology 2013; 17: 232-237
29	Kanemura H, Sano F, Tando T, Sugita K, Aihara M	University of Yamanashi	Efficacy and safety of add-on levetiracetam in refractory childhood epilepsy	Brain and Development 2013; 35: 386-391
30	Kanemura H, Sano F, Tando T, Hosaka H, Sugita K, Aihara M	University of Yamanashi	EEG improvements with antiepileptic drug treatment can show a high correlation with behavior recovery in children with ADHD	Epilepsy & Behavior 2013; 27: 443-448
31	Kanemura H, Sano F, Mizorogi S, Tando T, Sugita K, Aihara M	University of Yamanashi	Parental thoughts and actions regarding their child's first febrile seizure	Pediatrics International 2013; 55: 315-319
32	Kanemura H, Sano F, Ishii S, Ohyama T, Sugita K, Aihara	University of Yamanashi	Characteristics of headache in children with epilepsy	Seizure 2013; 22: 647-650
33	Kanemura H, Aihara M.	University of Yamanashi	Cognitive and behavioral consequences in children with epilepsy: the relationship between paroxysmal EEG abnormalities and cognitive/behavioral disturbances	Pediatrics Therapeutics: Current research 2013; 3: 151
34	Kanemura H, Aihara M.	University of Yamanashi	Frontal lobe growth retardation and dysfunctions in children with epilepsy: A 3-D MRI volumetric study	Pediatr Therapeut. 3: 160, 2013
35	Motohashi N, Yamaguchi M, Fujii T, Kitahara Y	University of Yamanashi	Mood and cognitive function following repeated transcranial direct current stimulation in healthy volunteers: A preliminary report	Neuroscience Research 77 (1): 64-69
36	Ishiguro H, Hall FS, Horiuchi Y, Sakurai T, Hishimoto A, Grumet M, Uhl GR, Onaivi ES, Arinami T.	University of Yamanashi, University of Tsukuba, NIH, Seaver Autism Center, Kobe University, Rutgers University, William Paterson University	NrCAM-regulating neural systems and addiction-related behaviors.	Addict Biol. ;19(3):343-53

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
37	Inozume T, Nakazawa R, Tanaka K, Harada K, Kawamura T, Shibagaki N, Shimada S	University of Yamanashi	A case of oral mucosal fixed eruption caused by methacrylate.	Contact Dermatitis. 70,376-388
38	Machiko TAKAKI, Inozume T, Takamitsu MATSUZAWA, Noriko ANDO, Miyuki YAMAGUCHI, Kazutoshi HARADA, Tatsuyoshi KAWAMURA, Naotaka SHIBAGAKI, Shinji SHIMADA	University of Yamanashi, Tokyo Medical University	Case of primary cutaneous peripheral T-cell lymphoma, not otherwise specified, with characteristics of follicular helper T cells.	Journal of Dermatology. 41(6)2014
39	Matsuda M, Ichikawa T, Amemiya H, Maki A, Watanabe M, Kawaida H, Kono H, Sano K, Motosugi U, Fujii H	University of Yamanashi	Preoperative gadoteric Acid-enhanced MRI and simultaneous treatment of early hepatocellular carcinoma prolonged recurrence-free survival of progressed hepatocellular carcinoma patients after hepatic resection.	HPB Surg. [Epub ahead of print], 2014
40	Hara M, Kono H, Furuya S, Hirayama K, Tsuchiya M, Fujii H	University of Yamanashi	Macrophage colony-stimulating factor plays a pivotal role in chemically induced hepatocellular carcinoma in mice.	Hepatology Res. [Epub ahead of print], 2013
41	Hara M, Kono H, Furuya S, Hirayama K, Tsuchiya M, Fujii H	University of Yamanashi	Interleukin-17A plays a pivotal role in cholestatic liver fibrosis in mice.	J Surg Res. 184(2): 574-82, 2013
42	Izawa S, Minura K, Watanabe M, Maruyama T, Kawaguchi Y, Fujii H, Kono K	University of Yamanashi	Increased prevalence of tumor-infiltrating regulatory T cells is closely related to their lower sensitivity to H2O2-induced apoptosis in gastric and esophageal cancer.	Cancer Immunol Immunother. 62(1): 161-70, 2013
43	Suzuki S, Motohashi S, Matsumoto M	University of Yamanashi	Surgical techniques for implanting implantable cardioverter defibrillators in children and infants	Surgery Today 2014 Oct; 44(10): 1801-1806
44	Suzuki S, Kise H, Kaga S, Hoshiai M, Koizumi K, Hasebe Y, Motohashi S, Matsumoto M	University of Yamanashi	Hybrid procedures for an infant with hypoplastic left heart syndrome with intact atrial septum	General Thoracic and Cardiovascular Surgery online first 2013
45	Shigeto EBATA, Hirokazu SATOH, Hisaya ORII, Shinichi SASAKI, Tetsuro OHBA, Hirotaka HARO	University of Yamanashi, Saiseikai Kawaguchi General Hospital, Yokohama City Minato Red Cross Hospital	Risk management in posterior spinal endoscopic surgery in lumbar diseases.	Journal of Orthopaedic Science: 18(3): 369-373
46	Hirotaka HARO, Miyuki NISHIGA, Daisuke ISHII, Takasumi SHIMOMOTO, Tsuyoshi KATO, Osami TAKENOUCHE, Satoshi KOYANAGI, Tetsuro OHBA, Hiromichi KOMORI	University of Yamanashi, Teijin Pharma Limited, Tokyo Medical and Dental University, The Chemo-Sero-Therapeutic Research Institute (Kaketsuken), Yokohama City Minato Red Cross Hospital	Experimental chemonucleolysis with recombinant human matrix metalloproteinase 7 in human herniated discs and dogs.	Spine J: 13: 1934-1937
47	Mitsuka K, Kawataki T, Satoh E, Asahara T, Horikoshi T, Kinouchi H	University of Yamanashi	Expression of Indoleamine 2,3-Dioxygenase and Correlation With Pathological Malignancy in Gliomas	NEUROSURGERY 2013 72(6): 1031-1038
48	Kanemaru K, Nishiyama Y, Yoshioka H, Satoh K, Hashimoto K, Hanihara M, Horikoshi T, Ozaki Y, Kinouchi H	University of Yamanashi	In-stent Thrombosis after Carotid Artery Stenting Despite Sufficient Antiplatelet Therapy in a Bladder Cancer Patient.	J Stroke Cerebrovasc Dis 2013 22(7): 1196-1200
49	Yoshioka H, Kinouchi H, Nishiyama Y, Kanemaru K, Yagi T, Hanihara M, Horikoshi T	University of Yamanashi	Advantage of Microscope Integrated for Both Indocyanine Green and Fluorescein Videangiography on Aneurysmal Surgery: Case Report	Neurologia medico-chirurgica 2014, 54(3): 192-195
50	Ishiyama T, Kotoda M, Asano N, Ikemoto K, Masamune T, Matsukawa T	University of Yamanashi	Ultrasound-guided out-of-plane obturator nerve block.	Anaesthesia 68: 1074-5, 2013
51	Ishiyama T, Iwashita H, Shibuya K, Terada Y, Masamune T, Nakadate Y, Matsukawa T	University of Yamanashi	High frequency jet ventilation in patient with previous contralateral pneumonectomy.	J Clin Anesth 25: 55-57, 2013
52	Sawada N, Nomiya M, Hood B, Kostlov D, Zhrifpour M, Andersson K E	University of Yamanashi, Wake Forest University School of Medicine, Fukushima Medical University School of Medicine	Protective Effect of a β 3-Adrenoceptor Agonist on Bladder Function in a Rat Model of Chronic Bladder Ischemia.	European Urology, 2013, 64: 664-71.
53	Kobayashi H, Haneda Y, Kira S, Tsuchida T, Araki I, Takeda M	University of Yamanashi, Shiga University of Medical Science	Tailor-Made Mesh for Pelvic Organ Prolapses: Correlation between Patient's Height and Mesh Size	Open Journal of Urology, 2013, 3: 121-3.
54	Takeda M, Yokoyama O, Lee S W, Murakami M, Morisaki Y	University of Yamanashi, University of Fukui, Sungkyunkwan University School of Medicine, Eli Lilly Japan	Tadalafil 5mg once-daily therapy for men with lower urinary tract symptoms suggestive of benign prostatic hyperplasia: Results from a randomized, double-blind, placebo-controlled trial carried out in Japan and Korea	International Journal of Urology, 2014, 21(7): 670-675
55	Takeda M	University of Yamanashi	Committee, 6 Detrusor Underactivity	Male Lower Urinary Tract Symptoms (LUTS), SIU (Societe Internationale d'Urologie), ICUD, 2013, 295-323.
56	Takeda M	University of Yamanashi	Committee 2 -Cell Biology	Incontinence 5th edition, Health Publication Ltd., London, 2013, 109-178.
57	Zakoji H, Inuzuka H, Kudou S, Nakagomi H, Takeda M	University of Yamanashi	The Artificial Urinary Sphincter Infection that Occurred 10 Years Later from Implantation	Medical & Surgical Urology, 2013, 2(2): 4172-4173

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
58	Nakagomi T, Goto T, Tateno Y, Oshiro T, Iijima H	University of Yamanashi	Macular slippage after macular hole surgery with internal limiting membrane peeling	Curr Eye Res,2013,38(12):1255-1260
59	Iijima H	University of Yamanashi	Visual loss and perimetric sensitivity in eyes with retinitis pigmentosa	Jpn J Ophthalmol,2013,57(6):563-567
60	Kashiwagi K, Chiba T, Mabuchi F, Furuya T, Tsukahara S	University of Yamanashi	Five-year incidence of angle closure among glaucoma health examination participants	Grasfes Arch Clin Exp Ophthalmol,2013,251(4):1219-1228
61	Kashiwagi K, Tanabe N, Go K, Imasawa M, Mabuchi F, Chiba T, Sugiyama A, Abe K	University of Yamanashi	Comparison of a remote operating slit-lamp microscope system with a conventional slit-lamp microscope system for examination of trabeculectomy eyes	J Glaucoma,2013,22(4):278-283
62	Sakurada Y, Iijima H	University of Yamanashi	Two-year results of photodynamic therapy with or without intravitreal ranibizumab for polypoidal choroidal vasculopathy	J Ocul Pharmacol Ther,2013,29(9):832-836
63	Sakurada Y, Yoneyama S, Imasawa M, Iijima H	University of Yamanashi	Systemic risk factors associated with polypoidal choroidal vasculopathy and neovascular age-related macular degeneration	RETINA,2013,33(4):841-845
64	Kashiwagi K, Ito K, Haniuda H, Ohtsubo S, Takeoka S	University of Yamanashi, Waseda University	Development of Latanoprost-Loaded Biodegradable Nanosheet as a New Drug Delivery System for Glaucoma	IOVS,2013,54(8):5629-5637
65	Kashiwagi K, Tsukahara S	University of Yamanashi	Impact of Patient Access to Internet Health Records on Glaucoma Medication: Randomized Controlled Trial	Journal of Medical Internet Research,2014,16(1):1-14
66	Kashiwagi K, furuya T	University of Yamanashi	Persistence with topical glaucoma therapy among newly diagnosed Japanese patients	Jpn J Ophthalmol,2014,58(1):68-74
67	Kitamura K, Yokomichi H, Yamagata Z, Tsuji M, Yoda Y, Kashiwagi K	University of Yamanashi, Yamanashi Koseiren Health Care Center	Changes in Intraocular Pressure and Associated Systemic Factors Over 10 Years in Subjects Without Ocular Disease at Baseline Changes in Intraocular Pressure and Associated Systemic Factors Over 10 Years in Subjects Without Ocular Disease at Baseline	J Glaucoma,2014,23(3):185-189
68	Yamanashi T, Sakamoto K, Watanabe H, Yonaga T, Oishi N, Kato R, Masuyama K	University of Yamanashi	Primary cervical leiomyoma with remarkable calcification and ossification.	Case Rep Otolaryngol 2014;2014:896275
69	Tanaka S, Hirota T, Kamijo A, Ishii H, Hatsushika K, Fujieda S, Ishitoya J, Masuyama K, Tamari M	Center for Integrative Medical Sciences, Yokohama City University Medical Center, University of Yamanashi, Saitama Medical University, University of	Lung functions of Japanese patients with chronic rhinosinusitis who underwent endoscopic sinus surgery.	Allergol Int 2014 Mar;63(1):27-35
70	ICHIKAWA Shintaro, MOTOSUGI Utaroh, ICHIKAWA Tomoaki, SANO Katsuhiko, MORISAKA Hiroyuki, ARAKI Tsutomu	University of Yamanashi	Intravoxel incoherent motion imaging of the kidney: alterations in diffusion and perfusion in patients with renal dysfunction	Magnetic resonance imaging 2013; 31(3):414-7
71	MOTOSUGI Utaroh	University of Yamanashi	Hypovascular hypointense nodules on hepatocyte phase gadoteric acid-enhanced MR images: too early or too progressed to determine hypervascularity	Radiology 2013;267(1):317-8
72	ONISHI Hiroshi, ARAKI Tsutomu	University of Yamanashi	Stereotactic body radiation therapy for stage I non-small-cell lung cancer: a historical overview of clinical studies	Japanese Journal of Clinical Oncology 2013;43(4):345-50
73	MORISAKA Hiroyuki, MOTOSUGI Utaroh, ICHIKAWA Tomoaki, SANO Katsuhiko, ICHIKAWA Shintaro, ARAKI Tsutomu, ENOMOTO Nobuyuki	University of Yamanashi	MR-based Measurements of Portal Vein Flow and Liver Stiffness for Predicting Gastroesophageal Varices	Magnetic Resonance in Medical Sciences 2013;12(2):77-86
74	MOTOSUGI Utaroh, ICHIKAWA Tomoaki, ARAKI Tsutomu, MATSUDA Masanori, FUJII Hideki, ENOMOTO Nobuyuki	University of Yamanashi	Bayesian prediction for liver fibrosis staging: Combined use of elastography and serum fibrosis markers	Hepatology 2013;58(1):450-1
75	ICHIKAWA Tomoaki, OKADA Masahiro, KONDO Hiroshi, SOU Hironobu, MURAKAMI Takamichi, KANEMATSU Masayuki, YOSHIKAWA Shushi, SHIOSAKAI Kazuhito, HAYAKAWA Akiko, AWAI Kazuo, YOSHIMITSU Kengo, YAMASHITA Yasuyuki	University of Yamanashi, Kumamoto University, Gifu University, Maruko Central Hospital, Kinki University, Gifu University, Osaka Medical College, Daiichi Sankyo Co., Ltd, Hiroshima University, Fukuoka University, Kumamoto University	Recommended iodine dose for multiphase contrast-enhanced multidetector-row computed tomography imaging of liver for assessing hypervascular hepatocellular carcinoma: multicenter prospective study in 77 general hospitals in Japan	Academic Radiology 2013;20(9):1130-6
76	ARAKI Takuji, OKADA Hiroki		Enhancement of ascites during abdominal oncological endovascular intervention without iatrogenic extravasation in patients with chronic liver disease	Clinical Radiology 2013 Aug; 68(8):e460-6

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
77	Chen Ningxin , MOTOSUGI Utaroh , SANO Katsuhiko , ICHIKAWA Tomoaki, NAKANO Masayuki , MORISAKA Hiroyuki , ICHIKAWA Shintaro, MATSUDA Masanori , FUJII Hideki , ENOMOTO Nobuyuki , ARAKI Tsutomu	University of Yamanashi, Ofuna Chuo Hospital	Early hepatocellular carcinomas showing isointensity or hyperintensity in gadoxetic Acid-enhanced, hepatocyte-phase magnetic resonance images	Journal of Computer Assisted Tomography 2013;37 (3): 466-9
78	ICHIKAWA Tomoaki , MOTOSUGI Utaroh, MORISAKA Hiroyuki, SANO Katsuhiko, MUHI Ali, ARAKI Tsutomu	University of Yamanashi	Volumetric low-tube-voltage CT imaging for evaluating hypervascular hepatocellular carcinoma; effects on radiation exposure, image quality, and diagnostic performance	Japanese Journal of Radiology 2013; 31 (8): 521-9
79	MOTOSUGI Utaroh, ICHIKAWA Tomoaki , ARAKI Tsutomu	University of Yamanashi	Rules, Roles, and Room for Discussion in Gadoxetic Acid-enhanced Magnetic Resonance Liver Imaging: Current Knowledge and Future Challenges	Magnetic Resonance in Medical Sciences 2013; 12 (3): 153-9
80	ICHIKAWA Shintaro, MOTOSUGI Utaroh, ICHIKAWA Tomoaki, SANO Katsuhiko, MORISAKA Hiroyuki, ARAKI Tsutomu	University of Yamanashi	Intravoxel incoherent motion imaging of focal hepatic lesions	Journal of Magnetic Resonance Imaging 2013; 37 (6): 1371-6
81	ICHIKAWA Shintaro, ICHIKAWA Tomoaki, MOTOSUGI Utaroh, SANO Katsuhiko, MORISAKA Hiroyuki, ENOMOTO Nobuyuki, MATSUDA Masanori, FUJII Hideki, ARAKI Tsutomu	University of Yamanashi	Presence of a hypovascular hepatic nodule showing hypointensity on hepatocyte-phase image is a risk factor for hypervascular hepatocellular carcinoma	Journal of Magnetic Resonance Imaging 2014; 39 (2): 293-7
82	MORISAKA Hiroyuki, MOTOSUGI Utaroh, ICHIKAWA Shintaro, SANO Katsuhiko, ICHIKAWA Tomoaki, ENOMOTO Nobuyuki	University of Yamanashi	Association of splenic MR elastographic findings with gastroesophageal varices in patients with chronic liver disease	Journal of Magnetic Resonance Imaging 2013 Nov 14. [Epub ahead of print]
83	ICHIKAWA Shintaro, ICHIKAWA Tomoaki, MOTOSUGI Utaroh, SANO Katsuhiko, MORISAKA Hiroyuki , ENOMOTO Nobuyuki , MATSUDA Masanori , FUJII Hideki, ARAKI Tsutomu	University of Yamanashi	Was HCC able to be seen on previous gadoxetic acid-enhanced MR images?	Magnetic Resonance in Medical Sciences 2013 in press
84	Ueki K, Okabe K, Marukawa K, Mukozawa A, Moroi A, Miyazaki M, Sotobori M, Ishihara Y, Yoshizawa K, Ooi K, Kawashiri S.	University of Yamanashi, Kanazawa University	Maxillary stability after Le Fort I osteotomy with self-setting α -tricalcium phosphate and an absorbable plate.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2013 May;42(5):597-603
85	Ueki K, Okabe K, Marukawa K, Mukozawa A, Moroi A, Miyazaki M, Sotobori M, Ishihara Y, Yoshizawa K, Ooi	University of Yamanashi, Kanazawa University	Skeletal stability after mandibular setback surgery: comparison between the hybrid technique for fixation and the conventional plate fixation using an absorbable plate and screws.	J Craniomaxillofac Surg. 2014 Jun;42(4):351-5
86	Ueki K, Marukawa K, Moroi A, Sotobori M, Ishihara Y, Iguchi R, Kosaka A, Nakano Y, Higuchi M, Nakazawa R.	University of Yamanashi	Changes in border movement of the mandible in skeletal Class III before and after orthognathic surgery.	Int J Oral Maxillofac Surg. 2014 Feb;43(2):213-6
87	Ishihara Y, Ueki K, Sotobori M, Marukawa K, Moroi A.	University of Yamanashi	Bone regeneration by statin and low-intensity pulsed ultrasound (LIPUS) in rabbit nasal bone.	J Craniomaxillofac Surg. 2014 Apr;42(3):185-93
88	Kaneo SATOH, Hirayam T, Katsuhiko TAKANO, Sato T, Masato OTA, Nkngomi J, Yukio OZAKI	University of Yamanashi, Nagasaki University	VacA, the vacuolating cytotoxin of Helicobacter pylori, binds to multimerin 1 on human platelets.	Thrombosis Journal, 2013,11(23),23-30
89	Kwasaki T, Bussolati G, Marchiò C, Castellano I, Daniele L, Molinaro L, Hinata M, Furuya K, Nakagomi H, Oyama T, Tsunoda H, Sugai T, Katoh R, Sapino A.	University of Turin, University of Yamanashi, Institute 'Victor Babes', Yamanashi Prefectural Central Hospital, Iwate Medical University School of Medicine	Well-differentiated neuroendocrine tumour of the breast showing peculiar endovascular spread.	Histopathology 64(4): 597-600
90	Nakamura Y, Nakano N, Ishimaru K, Hara M, Ikegami T, Tahara Y, Katoh R, Ogawa H, Okumura K, Shibata S, Nishiyama C, Nakao A	University of Yamanashi, Juntendo University School of Medicine, Juntendo University Graduate School of Medicine, Waseda University	Circadian regulation of allergic reactions by the mast cell clock in mice.	J Allergy Clin Immunol 133(2): 568-575
91	Kwasaki T, Bussolati G, Castellano I, Marchiò C, Daniele L, Molinaro L, Kondo T, Katoh R, Inoue S, Fujii H, Sugai T, Sapino A.	University of Turin(研修先), University of Yamanashi, Institute 'Victor Babes', Iwate Medical University School of Medicine	Small-cell carcinoma of the breast with squamous differentiation.	Histopathology 63(5): 739-741

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
92	Mochizuki K, Kondo T, Oishi N, Kawasaki T, Nakazawa T, Yamane T, Katoh R.	University of Yamanashi	Immature squamous metaplasia (focal atypical epithelial hyperplasia) of the pancreatic duct-immunohistochemical distinction from intraductal carcinoma.	Histopathology 63(3): 343-350
93	Fatima Z, Motosugi U, Waqar AB, Hori M, Ishigame K, Oishi N, Onodera T, Yagi K, Katoh R, Araki T.	University of Yamanashi	Associations among q-space MRI, diffusion-weighted MRI and histopathological parameters in meningiomas.	Eur Radiol 23(8): 2258-2263
94	Kato H, Katoh R, Kitamura M.	University of Yamanashi	Dual regulation of cadmium-induced apoptosis by mTORC1 through selective induction of IRE1 branches in unfolded protein	PLoS One. 16;8(5): e64344
95	Zhu Y, Ohba T, Ando T, Fujita K, Koyama K, Nakamura Y, Katoh R, Haro	University of Yamanashi	Endogenous TGF- β activity limits TSLP expression in the intervertebral disc tissue by suppressing NF- κ B activation.	J Orthop Res 31(7): 1144-1149
96	Gu L, Johno H, Nakajima S, Kato H, Takahashi S, Katoh R, Kitamura M	University of Yamanashi	Blockade of Smad signaling by 3'-deoxyadenosine: a mechanism for its anti-fibrotic potential.	Lab Invest 93(4):450-461
97	Oishi N, Kondo T, Mochizuki K, Inoue T, Kasai K, Nakazawa T, Mitsumori T.	University of Yamanashi	Localized langerhans cell histiocytosis of the thymus with BRAF V600E mutations: a case report with immunohistochemical and genetic analyses.	Hum Pathol 45(6): 1302-1305
98	Oishi N, Kondo T, Mochizuki K, Kasai K, Inoue T, Yamamoto T, Watanabe H, Hatsushika K, Masuyama K, Katoh, R	University of Yamanashi	Thyroid-like low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinoma: Case report and literature review.	Pathol Res Pract Epub ahead of print

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 別紙①のとおり	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年11回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 医学研究実施者及び医学研究関係者の利益相反の存在を明らかにした上で、医学研究に係る利益相反の適切な管理をおこなうことにより、被験者の人権擁護及び安全性を確保し、かつ、本学及び職員等の社会的信頼を得て医学研究の推進を図ることを目的とする。 ※規程等は別紙②のとおり	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年11回

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 倫理審査申請書の書き方、倫理指針等について	

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

別紙③のとおり

2 研修の実績

研修医の人数	131人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
榎本 信幸	第1内科	教授	29年	消化器内科
久木山清貴	第2内科	教授	32年	循環器内科、呼吸器内科
小林 哲郎	第3内科	教授	39年	糖尿病・内分泌内科・腎臓内科
桐戸 敬太	血液・腫瘍内科	教授	25年	
瀧山 嘉久	神経内科	教授	32年	
藤井 秀樹	第1外科	教授	34年	消化器外科、乳腺・内分泌外科
松本 雅彦	第2外科	教授	37年	心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科
松川 隆	麻酔科	教授	28年	
本橋 伸高	精神科	教授	33年	
杉田 莞爾	小児科	教授	35年	
平田 修司	産婦人科	教授	27年	
柴垣 直孝	皮膚科	准教授	25年	
百澤 明	形成外科	准教授	18年	
波呂 浩孝	整形外科	教授	24年	
木内 博之	脳神経外科	教授	30年	
武田 正之	泌尿器科	教授	32年	
飯島 裕幸	眼科	教授	35年	
増山 敬祐	頭頸部・耳鼻咽喉科	教授	34年	
大西 洋	放射線科	教授	25年	放射線診断科、放射線治療科
尾崎由基男	臨床検査医学	教授	36年	
松田 兼一	救急部・集中治療部	教授	24年	
加藤 良平	病理診断科	教授	35年	

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャルティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャルティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 ② 現状
管理責任者氏名	病院長 島田 眞路
管理担当者氏名	総務課長 丸山 さとみ、医事課長 高山 俊雄

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		病歴室 看護部 薬剤部 各診療科	カルテ及び検査所見記録等は1患者1ファイルで、すべて病歴室で一元管理している。 診療録は「院外に持ち出さないこと」と規定している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保険場所で保管管理している。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	総務課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課 薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項の各号及び第九の二十第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	安全管理室	病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保険場所で保管管理している。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御室	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	安全管理室	
	当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	安全管理室	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則	院内感染のための指針の策定状況	感染制御室
	第一条	院内感染対策のための委員会の開催状況	総務課
	第十一条	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	総務課
	第一項	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御室
	各号	医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
	及び	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬事部
	第九条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	第二十三	医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	第一項	医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	MEセンター
	第一号	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	MEセンター
	に掲げる体制の確保の状況	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	MEセンター
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	MEセンター	

病院の管理及び運営に関する諸記録は、左の保険場所で保管管理している。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	病院長 島田 眞路	
閲覧担当者氏名	総務課長 丸山 さとみ、医事課長 高山 俊雄	
閲覧の求めに応じる場所	総務課、医事課	
閲覧の手続の概要 記録閲覧を求める者からの申立てにより、適否を判断し、閲覧場所を定めて閲覧させている。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	4 件
閲覧者別	医 師	延 0 件
	歯 科 医 師	延 0 件
	国	延 2 件
	地方公共団体	延 2 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号及び第9条の23第1項第1号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 医療機関における安全管理に関する基本的考え方 ・ 医療安全の基本的考え方(2) 医療機関に係る安全管理のための委員会その他医療機関内の組織に関する基本的事項 ・ 安全管理の体制を確保するために、安全管理委員会及び安全管理室の設置 ・ 医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の設置 ・ 安全管理のための責任者（リスクマネージャー）を定め、病院の安全管理の体制確保に努める(3) 医療に係る安全管理のための職員研修に関する基本方針 ・ 安全体制の確保のために、職員研修の企画・実施(4) 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 ・ 「医療事故等発生報告書」「状況報告書」「インシデントレポート」の入力、報告及び対策 ・ 安全管理のためのマニュアルを整備し、安全管理委員会に届け出る(5) 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 ・ 事故発生時の対応マニュアルの整備および事故発生時の対応(6) 医療従業者と患者との間の情報の共有に関する基本方針（患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針を含む。） ・ 患者への情報提供(7) 患者からの相談への対応に関する基本方針 ・ 患者相談対応(8) その他医療安全推進のために必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制の整備、安全管理のためのマニュアル整備(2) 医療事故等の防止及び発生時の対応(3) 使用する医薬品、医療機器の安全管理(4) 安全管理のための職員研修(5) 患者に重篤な傷害が生じた場合の対応、原因分析、改善策の立案・実施、職員への周知(6) 立案した改善策の実施状況の調査及び見直し。(7) 医療従事者と患者との情報の共有(8) 患者からの相談への対応	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 安全管理体制講演会・・・2 回(2) 医療安全活動報告会・・・2 回(3) 事例検討会・・・3 回(4) チームSTEPPS研修会・・・2回(5) 情報セキュリティ講演会・・・1回	

<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 『インシデントレポートシステム』による運用を行っており、インシデントレポートの第1報が入力されると、あらかじめ決められた安全管理室員 (①室員) が内容を把握し、関連する部門のリスクマネージャーに情報を伝える。情報を受けた各リスクマネージャーはインシデントの状況確認及び原因の詳細説明、再発防止策を検討し、第2報として報告する。第2報は、担当する安全管理室員 (②室員) が内容を検討し、内容が不十分な場合は担当のリスクマネージャーに差し戻し再検討を依頼する。十分の場合は保存レポートとして終了する。 (2) 提出された内容に基づき、重要事例について安全管理委員会及び安全管理室会議において組織としてのインシデントの分析及び問題点を検討する。必要に応じて部署事例検討会を開催し、より実践に即した具体的分析・検討を行う。 (3) 上記で検討された内容に対し、重要事例について安全管理室会議、安全管理委員会で改善策が検討され、その結果はリスクマネージャー会議で報告及び意見交換され、「リスクマネージャー会議便り」として各部署に報告・周知を行ない実行に移している。特に重要と考えられるインシデントについては、インシデント内容、改善策等をリスクマネージャーニュースとして発行し周知徹底している。また必要に応じてゼネラルリスクマネージャーが直接指導し実行に移している。 	
<p>⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> (2 名) ・ 無</p>
<p>⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> (2 名) ・ 無</p>
<p>⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 所属職員： 専任 (2) 名 兼任 (26) 名 ・ 活動の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> (1) 安全管理委員会及び医療事故調査委員会に関する事項 <ul style="list-style-type: none"> (2) 事故等に関する診療録及び看護記録等への記載が正確かつ十分にされているかの確認及び必要な指導 (3) 事故発生時の患者及び家族への対応状況の確認及び必要な指導 (4) 事故等の原因究明が適切に実施されていることの確認及び必要な指導 (5) 医療安全に係る連絡調整に関する事項 (6) インシデントレポート及び状況報告書の確認 (7) インシデント等に関する調査及び分析 (8) 改善策の検討及び策定 (9) 職員に対する情報提供 (10) 改善策の実施状況の監視及び指導 (11) 医療事故防止マニュアルの見直し (12) 安全対策に関する教育の企画及び実施 	<p><input checked="" type="radio"/> ・ 無</p>
<p>⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>	<p><input checked="" type="radio"/> ・ 無</p>

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容： 委員会等の整備，感染対策マニュアルの整備，リンクドクター・リンクナースの配置，院内感染発生時の対応，インフォームドコンセント，報告の義務，職員研修の実施，指針の閲覧に関する事項など</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年12回
<p>・ 活動の主な内容：①定例会議・緊急会議の開催 ②感染症サーベイランスの実施・評価 ③感染症アウトブレイクへの対応 ④感染対策の実施状況の調査・指導 ⑤感染対策に関する教育啓蒙活動(職員・学生) ⑥感染コンサルテーション ⑦職員への職業感染対策推進 ⑧感染対策に関する情報収集 ⑨感染性廃棄物処理の監視及び指導 ⑩感染対策マニュアルの更新</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年4回
<p>・ 研修の主な内容：①「新しい感染症：傾向と対策」 ②「正しいタイミング・方法での手指衛生実施に向けて」 ③「細菌検査統計システム」 ④「今シーズンのインフルエンザ対策～昨シーズンからの評価から～」 ⑤「MDRP拡大予防対策の実際」 ⑥「手指衛生のタイミング習慣化に向けた取り組みとその効果」</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： ①感染対策委員会・感染制御室会議・感染対策チーム会議における方策の検討・決定・実施 ②院内ラウンドの実施及び指導 ③感染対策チーム員を巡して重要事項を各部署へ伝達するとともに、各部署からの意見・質問を収集した後、会議で検討し再度チーム会議において周知を行なう。 ④感染対策マニュアルの見直し・改訂</p>	

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・研修の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1 新採用者職員研修2 薬剤管理に関する講習会3 抗菌薬の使い方講習会（医師）	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 （有・無）</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>医薬品安全管理手順書を医薬品安全管理小委員会で見直し、検討を行う。 医薬品安全管理手順書どおり業務が行われているか、年 2 回チェックする。</p>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医薬品情報室に専任の薬剤師を配置している。・ 機構のホームページにて最新の添付文書を閲覧している。・ MR に変更添付文書の提出を依頼している。・ 調剤棚や注射薬棚に添付文書を保管し、薬品補充時に添付文書変更があれば差し替えている。・ 企業より添付文書集を入手し、D I 室および調剤室に保管している <p>・ 周知方法</p> <p>薬剤部にて医薬品情報や D I - B O X などの情報誌に編集し、院内・医療関係者に配布している。</p> <p>この情報はオーダーリングシステムの電子掲示板に掲載し、バックナンバーを参照できるようにしている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 特定の診療科に対して重要な情報は、当該診療科により詳細な情報を提供している。・ 重大な副作用発現など重大な情報は、これまでに使用した医師を処方歴から調査し、医師個人宛に情報提供している。・ 病院全体に提供すべき重大な情報について、既読者リストを貼付し、情報を読んだ者の氏名を記載してもらい返送をお願いし、未読者に連絡する。・ 医薬品集を定期的に発行している。・ PMDA のメディナビに登録し、最新の情報を入手している	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	(有)・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
使用方法、警報発生時の対処方法、始業前点検事項、安全機構、故障・不具合発生時の対応	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 計画の策定 ((有)・無)	
・ 保守点検の主な内容： 外観検査、機能条件検査、機械的検査、電気的検査、安全性検査、消耗部品交換	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無)	
・ その他の改善のための方策の主な内容：	
1. インシデントレポート	
2. リスクマネージャー会議だより	
3. MEセンターからのお知らせ	

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新審査（Ver. 6.0）を平成21年12月に受審し、平成22年3月に同機構による基準を達成しているとして認定を受けた。	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 広報誌（年2回発行）やホームページ（随時更新）を通じて地域住民に対し、診療内容や取り組んでいる事業等についての情報発信を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 それぞれの診療科が専門性をもっており、患者状況により必要に応じて、他診療科へ診療依頼を行っている。	

(様式第 8)

梨大医事発第 5 号
平成 26 年 10 月 3 日

厚生労働大臣

殿

山梨大学医学部附属病院
開設者名 前田 秀一

山梨大学医学部附属病院の標榜する診療科の整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1 診療科名

1-1 標榜する診療科の区分

- ① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科すべてを標榜
- ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○を付けること。

1-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等	
1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 腎臓内科 5 神経内科 6 糖尿病・内分泌内科	
7 血液・腫瘍内科 8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名	
1 呼吸器外科 2 消化器外科 3 心臓血管外科 4 小児外科 5 乳腺・内分泌外科 6 形成外科	
7 8 9 10 11 12 13 14	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

1精神科	2小児科	3整形外科	4脳神経外科	5皮膚科	6泌尿器科	7産婦人科
8産科	9婦人科	10眼科	11耳鼻咽喉科	12放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	15麻酔科	16救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	<input checked="" type="checkbox"/> 有	<input type="checkbox"/> 無
歯科と組み合わせた診療科名		
1 歯科口腔外科	2	3
	4	5
	6	7
歯科の診療体制		

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外で標榜している診療科名

1 病理診断科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

3 不足している診療科の整備のための予定措置

<p>「救急科」について 中央診療部門である「救急部」を整備（組織・院内規程等）し、「救急科」として届出手続きを行う予定である。</p>
